

イエスは 主なり

日本クリスチャン・アシュラム連盟



# 日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 '96.11.1 106



## アシュラムの恵み

フィリッピ 3:8

新 原 進

私が伊豆大島の伝道に熱中していた頃である。ふとしたつながりから山根可式牧師が来島された。波浮の港が一望できる静かな旅館をお世話したところ、二日目には電話がかかってきて、「あなたの所に泊まりたい」と無理な注文を（子供二人、夫婦で部屋一ぱい）寄せて来られた。

これは困ったものだと内心思いながら、しかたなく保育室の一室にゴザを敷き、重ね布団で床を作り、休んで頂くことにした。勿論ご本人これで満点、OKである。こちらは思う壺にはいらされたわけである。

翌朝からミニ・アシュラムである。“静聴”、これは聞いたこともないようなことばであるが、手とり足とりで、山根牧師と私と二人で静聴が始まり、さらに“奥さんも”である。まるでザアカイの家に泊まり込んだイエスさまのように、御国の中心、アシュラムの中心を懇々と説くもので、逃れ場を失って私には、まさに鉄槌を打ち込まれるようにその真髄に与らせて頂いた。山根師は満足し、大変喜んでお帰りになられた思い出がある。

誰からも教えてもらうのではなく、イエスから直接に聞くのだという。聖書を読むという形において、実は聖書から聴いてゆく。そして恵みを分かち合い、祈る。正に二人、三人の中にアシュラムが育ってゆく。お互いを批判せず、主が導いて下さることを祈る。この恵みは実に大きかった。パウロはイエスを知ることの恵みを“絶大”と評しているが、まことに然りというものである。（ピリピ3：8、口語訳）

これまでの聖書を読み、教えられ、力づけられて来た歩みと、それが一体どこで異なってきたのか。私は生ける神の言葉が私の歩みに語りかけてくるのを受けとめ、応答へと迫られる直接的な経験に於いて弱かったのがあった。「イエスは主である」と、主の御言葉に直ちに従う生活は、キリストの従順に学ぶことでもあり、アシュラムの五大原則の（二）にも通じることである。

イエスを知るとは、神を恐れることであり、神を神として、御言葉に聴くことである。自分に語りかけ、命じられた言葉として聴いて、従ってゆくことである。

アシュラムをやると説教も変わってくると山根牧師は言われた。当然、学問や研究発表とちがいで、聴いてそのままを告げるのであるから、学術的色合や律法学者風のものとはちがいで、権威ある者のように聞こえたイエスの語り口に似て来るかもしれない。神の国の体験と献身を思う。

伝道が奮わないとか、困難だとか言われるが、どれだけ静聴し、行動に移しているのかと、自らに問うのである。深みに網を入れたり、右におろしたり、沖へ漕ぎ出すのも、御言葉に従う働き、正に御霊の働きに従うことである。私たちは、その収穫を喜ぶことができるのではないだろうか。（ルカ5：4～8、ヨハネ21：6～11）

（関東アシュラム委員・小石川白山教会牧師）



スタンレー  
ジョーンズ  
コーナー

説教者・アシュラム創始者ジョーンズの生涯  
(5) J・マシューズ

「労働者ばかり」は古い上流階級の思いついた、侮蔑的いい草でした。「私は生涯を政治的、社会的、経済的、道徳的、精神的革命の只中に生き延びる定めにあった。私は革命の中にあるインドへ福音宣教師となるよう定められていた。私はその革命が英国とインドに影響を及ぼすのみか、私と私が信じキリスト教として提供したものに、また私の態度全般にどれほど影響を及ぼすか、ほとんど分かっていませんでした。私は変革されるだろうか、大きな疑問は私が信じ提供した福音が根本的に、基本的に変えられるか、それとも元のままで残るかと言う問題でした。さらにかの福音自体が革命・革命中の革命であるという結果となるだろうかとの疑問でした。」

彼がかかわった諸革命の中で知識階級の人々に福音を伝えることが彼の役目でした。彼は優秀なテニスの

競技者だったのでシタプルに於いて、インド人の役人、法律家のクラブで非常に歓迎されました。競技の後ではトランプ卓の周りに座って人々と話すことを楽しみました。ある夕方、一人の印度教徒が言いました。「どうしてあなたは被差別階級の人々の所にだけ行くのですか。どうして我々の所に来ないのですか。」彼は答えました。「私はあなた方が宣教師として来るのを望まれているとは思いませんでした。」その判事は答えました。「あなたは誤解しています。正しい道から来られるなら、あなたには来て欲しいのです。」「あなたが正しい道から来るなら」と言う語句はジョーンズに強い印象を与えた、規範であり、善悪の判断規準として彼の生涯を通して彼の心がけとなりました。

彼はその「正しい道」を見つけ、適用しようとして生涯を費やしました。私はジョーンズ博士を四十五年間親しく知っていました。そして彼を間近から、久しい期間見守る機会を得ました。彼は本物でした。勿論彼には弱さがありました。それらは神の前のことでした。それは彼がイエス・キリストに完全に明け渡してしましたから。ある時、一人の印度教徒に、「彼をどう思うか」と問うた時に彼は「ごらんの通り」と答えました。彼は「兄弟スタンレー」と呼ばれた通り

の人でした。彼はあなたがみられる通りでした。彼は驚くべきユーモアの感覚をもっていました。彼は自分の話を笑い生き生きとさせ、軽い笑いをちりばめました。たとえば、娘のユニスのことを喜んで話しました。彼女は子供の時祈りました。「主よ、インド教徒が偶像を拜むのを止めさせて下さい。：彼らが拝んでいるのを見るのはとても面白いですけれども。」

彼は疑われない人でした。ラクナウで馬車の御者が、「回心」したことがありました。その御者はジョーンズ博士に、「回心したからには、自分で商いができるように、馬が要ります、と説明しました。これはもつともらしく思われたので、金が与えられました。英国人の友人たちから、E・スタンレー・ジョーンズがラクナウの競馬場で冬期出場する競走馬の持ち主だと聞かされて、大いに驚きました。

ああ、彼は如何にインドを愛したことでしよう。彼はその国の隅々にまで五十年間旅をしたので、その国とその人々を親しく知っており、貴賤を問わず人々を熟知していました。一九〇七年に初めてインドへ行った時、インドを代表する一語は「無気力」と言いました。その晩年に近づいた時、彼の言った言葉は「可能性」でありました。

スタンレー兄弟はよく鍛練された人でした。大学に居た時、毎日二時間の祈りと黙想の習慣を身につけました。そしてこの習慣を持続しました。朝と夕に瞑想の時をもつために、彼は誰も知らない中にひっそりと居なかりました。このために、彼がたけていた素晴らしい会話をお客に楽しんで貰おうと、彼を招いた女主人たちの絶望の種でした。

彼の鍛練は毎朝の目醒めの時間を読書、執筆、カウンセリング、講演で満たすことを含んでいました。毎日はまだきびしい身体の運動で閉じられました。彼は立派な野球とテニスの競技者であり続けました。その上彼はすばぬけた説教者でした。彼が最善の時には、私が聞いた中で最も実力のある福音の解釈者でした。

(白川訳)

アシュラム生活最良の友  
アパ・ルーム

海老沢 宣道 編集

(年6回刊行の日々の糧)

国際的、超教派的、霊的な読物

価300円、〒90円、年2,340円(〒とも)

申込先 ☎256 小田原市国府津3-11  
振替口座 00110-7-193834 アパ・ルーム  
電話番号 0465-48-2010

日本語版は創刊以来45年続行中



第34回関東アシラム

◎関東アシラムの報告

十七号台風が去った九月二十三日、二十五日箱根山崎製パン山荘で、三十八名出席し開催。助言者は在日大韓西成教会、金元治師。第一回の講話では聖霊の導きに従う生活について力強い勧めをされ、第二回は「イエスは主である」と叫ぶ。彼は復活の主にあつてもまだ信じ切れず、ティベリヤ湖畔で漁夫生活に戻っていたところへ主が現われ、前にあつた通りの大漁の奇跡がおこった。ペトロは舟から湖に飛び込んで主の傍らに行つた。どこまでも主について行く

ことだ。我々は自分の信仰が空虚であると嘆くが、教会という病院に通院して、旧約、新約という薬を飲み続けて元気になる。それを止めてはいけない。」とアシラム生活の奥義を示し、大いなる感動を与えられた。恵まれた退修の会であつたことを一同感謝した。

▼関東アシラムに出席して

相模原市 設楽不二子 聖名をたたえます。イエスは主です。今回は私にとり大きな課題のあるニードをもつて出席しました。諸兄姉から貴重な体験を聞かせて頂き、主の交わりのすばらしさを感じております。また今まで近より難かつた先輩方との打ちとけた会話で、温かい、やさしい笑顔に接することができ、距離が狭まりました。

藤枝市 内海 健寿

アシラムを開催された委員の労に感謝します。キム師のメッセージ、祈るとは祈ることだ、礼拝とは礼拝することだ、献金とは献金することだ、は「実行する」ところに神の栄光が現われると示されました。キム師を養成教育した松山夜学校西村先生、同志社の魚木、大塚、富森の諸先生に感謝します。生命がけで日本脱出を実行した新島襄のような人物の養成が大切です。ホーリネス系の

源である英国聖公会のバクストンの霊をアシラムに生かすべく祈ります。

ラジオ体操、周囲の散策など体を動かす時に入れて下さい。

▼東北地区・郡山アシラム委員

去る九月、アシラム継続のため六名の実行委員を選出した。実行委員長は郡山教会の役員、黒沢源之助兄。

▼連盟役員会報告

※役員会開催五回 7/13・11/14・1/23・3/6・4/30

※四十年記念アシラム集会出席者累計421名「いかに祈るか」出版

※十七回全国理事会及び第四回セミナーを箱根にて開催 6/3~6/5

※スタンレー・アパルム・ツアー 5/13~5/24の企画・実行

◆日本クリスチャン・アシラム連盟 一九九五年度通常会計決算報告 (一九五六~九六・五)

◎収入の部

賛助献金(二三日)一三七、〇〇〇

地区分担金(六日)二四六、〇〇〇

四十年記念特別会計より繰入金 四一〇、〇八〇

収入合計 八九三、〇八〇

◎支出の部

役員会開催費 一一五、九七〇

十六回全国理事会開催費

弔花料(東北) 一〇七、四〇〇  
会報発行費(六回) 四二八、八二四  
広告費 二九、〇〇〇  
雑費 六四、八九二  
前年度不足金 七六、〇四二  
次年度へ繰越 六〇、九五二  
支出合計 八九三、〇八〇

※賛助金 函館栄光教会、新原、迪、中村よね、河野、修、河内三男、大石嗣郎、木部安来、尾原光彦、土山牧羔、古河、治、飯島庸江、井上龍夫、石神、勇(十三名)

※分担金 九州、関西、城北、バルナバ、四国、関東(六〇)

会計 大石嗣郎・飯島庸江

◎訂正 会報第一〇四号 頁の写真中、「第三回関東アシラム主催全国アシラム」を、「第三回全国アシラム」と訂正

◎訂正

◆最新刊・好評◆ 日本アシラム四十年記念出版

今世紀最大の世界的宣教師 スタンレー・ジョーンズ博士著 白川鄭二・飯島庸江共訳

いかに祈るか 祈りの人スタンレーが祈りとは何か、祈りの段階と方法と実例を親切に教えている好著

新書判七〇頁 定価六〇〇円 一・一九〇円

発行所 日本クリスチャン・アシラム連盟

◆教会その他の祈祷会で用ゆるのに最適の好テキスト

編集人 白川鄭二 発行人 大石嗣郎 定価 一部60円 千80円

## 〈スタンレーとアバ・ルーム

### ゆかりの地を訪ねて(2)

海老沢宣道

ウエスレー神学校の礼拝堂と図書館が中庭を挟んで向き合っているのは、信仰と学問、霊的な生活と知的研究の一致を目指しているとの説明があり、広い緑の校庭、林の中に、ジョン・ウエスレーが馬上で説教している銅像が立っているのを今回初めて見た。この図書館の一部には、わが賀川豊彦の記念室があり、バジニヤ・ハムナー女史が専門に保管と研究をしている。その資料の大部分は、この学生であった金子益雄兄が探し集めて寄贈したものとの由である。

午後はワシントン大聖堂を見学することにした。これは二百年前に、新しい都市計画が立てられた時から、初代大統領を中心に国民のための教会を建てようとの希望が起り、およそ百年後(一八九三年)に多くの支持者の声に応じて、議会が国家事業として着手することを決議し、一九〇七年から工事が始められた。一九三三年頃には世界最後のゴシック様式の大聖堂がほぼ完成し、内部の聖壇後背部の飾り壁(レレド)を始め、幾つもの目的別の小礼拝堂も整い、一九七六年には献堂式が聖公会ワシントン教区主教の司式によって守られ、更に細部の工事の終了を見たの

は、数年前のことである。

一九八六年一月、第六回の国際アシュラムをジョージア州で守ったあと、この大聖堂を訪問した日の朝、スペースシャトルの打ち上げを失敗して、有為な宇宙飛行士数名が殉職した報道を受け、正午から臨時に特別祈祷会が小礼拝堂で催されたのに参加したことを思い出したが、その時は北回廊の二十七番のコーベルの上に賀川豊彦師の像が飾られているのを教えられたが、新島襄先生の像もあることは後日知らされて残念に思い、期待していた今回は案内役に尋ねて、それが正面聖壇のレレドの中央にキリスト、その周囲には大天使たち、旧約の預言者、新約の聖徒、世界キリスト教史上の有力な証人たちが九十三名の彫像が両側四面にびっしりと三段或いは四段に取り付けられており、わが新島襄先生は南端(右側)四段の最上階に飾られていた。小型カメラでようやく所在を確認した証拠を取ることができた。

ここで毎日世界のあらゆる国家、人種、宗教のためにも祈る礼拝が年に千二百回守られているという。ロマ市の聖ペトロ大寺院よりも礼拝堂らしい感じがする。全米の救いのために健斗を祈ってやまない。

第四日、五月十六日(木)、朝九時のUA便でワシントンをたち、午後

一時半頃ケンタッキー州レキシントン着、かねて連絡をしておいたアズベリー神学校のJ・T・シーマンズ博士が学生と共に二台の車で迎えて下さる。その学生とは東洋宣教会の宣教師として宝塚市と東村山市に伝道中、一時帰国して博士課程を取っているW・デュプリー兄である。分乗して約三〇分、緑の牧場が延々と続く平原を走って、ウイルモアの村に到着、美しい芝生の上に赤煉瓦の大小様々な校舎が散在している。一九八〇年にJ・W・ヒューズが最初の木造校舎四室を村の教会と郵便局の間に建てたものが、今日も広大な大学校庭の中ほどに移して保存されていた。スタンレーはボルチモアで伝道者H・C・モリソン師によって、アズベリー大学を勧められたが、「もしこの大学が私をモリソンのような説教者にしてくれるなら行きたい」と考えたようである。そして一九〇四年に入學し、創立者で初代学長のヒューズ師の下で勉強した。その年から聖霊の異常な傾注があり、スタンレーは全生命の聖化を受け、伝道への召命を経験した。この学内リバイバル中、彼は何度も説教をしている。

一九〇七年卒業も間近い日、女子寮が火災に遭い、男子寮を女生徒に提供、スタンレーは、L・ピケット家に下宿していた。その頃十代のワス

コム・ピケットとは生涯の友情を持っていたが、当時第二代学長のB・F・ヘインズ師からスタンレーに手紙が渡され、「君は大学に残って教えるのが神のみ心だと思おう」とあったので、彼は自室でひざまずき、「神よ、教授と牧師と外国宣教師と三つの道が見えていますが、どれが真に御心に治うのでしょうか」と祈っていた時、「インドへ」という御声が聞こえたと言う。その後何年かして、下宿していた家の少年も宣教師となってインドに来て、スタンレーを助け、やがてインドメソジスト教団の監督となった。スタンレーは約六十年にわたり、生涯の三分の二をインドの救いのために献げ尽したが、その間母校の大切な行事には何度も帰校して説教をしていた。

## 海老沢宣道の新書

### 神に就いての黙想

B6判、150頁、価1,300円 ¥240円

神との生きた対話・交わりを願いつつ綴られた信仰の随想。老熟した著者が現代の教会に問題提起しつつ語りかけるメッセージ。

発売所 キリスト新聞社

取次 日本クリスチャン・アシュラム連盟